

チャイナモバイル(00941)

【セクター】 通信サービス

【市場】 香港

【企業概要】

中国最大の通信事業者。2022年末時点のモバイル契約者数は9.75億人で、5G（第5世代移动通信システム）契約者数は6.14億人です。2019年から進んでいる5Gの普及で同社は契約者数で競合他社を上回っています。売上高の9割を占めるデータ通信サービスは主に個人向けが全体の57%、家庭向けが14%、法人向けが23%を占めます（22.12期）。2020年に米国の中国軍関連企業リストに追加されました。中国で事業を展開しているため、業績への影響は限定的です。

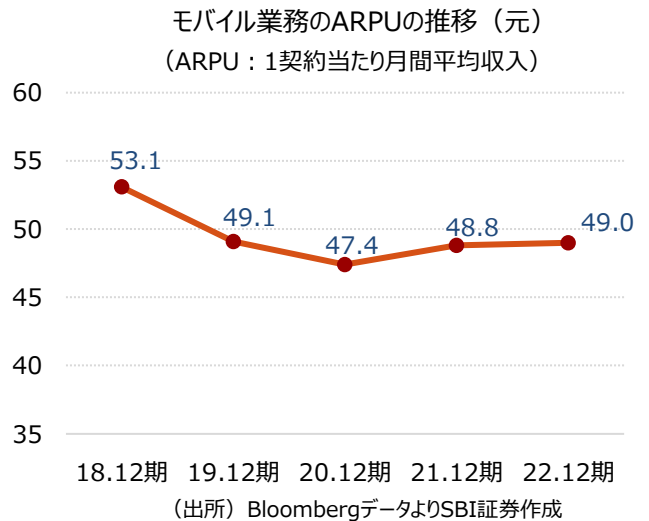
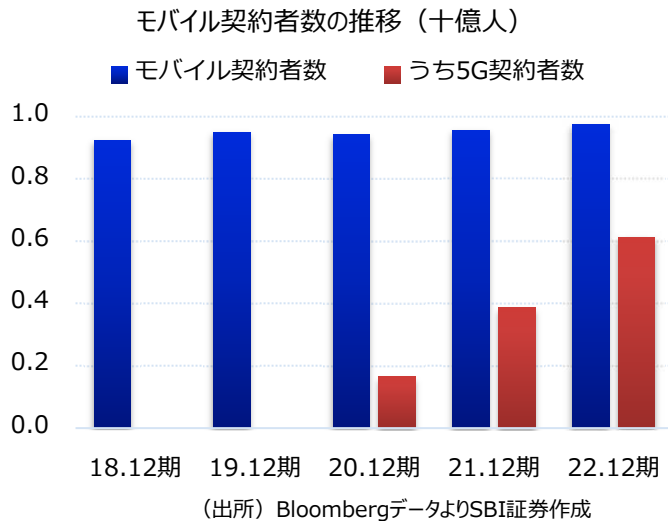
【業績】（単位：売上高、純利益は百万人民元、EPS、1株配当、BPSは人民元、ROE、自己資本比率は%、純利益、EPSは調整後ベース）

決算期	売上高	純利益	EPS	1株配当	BPS	ROE	自己資本比率
21.12期	848,258	112,461	5.49	3.31	57.2	10.0	65.1
22.12期	937,259	122,413	5.73	3.86	60.7	10.0	67.2
23.12期（予）	1,011,996	134,377	6.33	4.45	62.8	10.2	-

※EPS：1株当たり利益、BPS：1株当たり純資産、ROE：株主資本利益率

（出所）BloombergのデータよりSBI証券作成

【主要指標】



【会社の見方】

中国最大の通信事業者として、近年は5Gネットワークの構築や5G顧客の獲得に注力しています。5G契約者数は増加傾向が続いており、22.12期はモバイル契約者数の6割を占めるようになりました。法人向けでも5Gネットワークを活用し、企業のデジタル化を支援しています。5G投資がピークを超え、5G契約者数も順調に伸びていることで、会社側は株主還元策としてより配当を重視しています。具体的には、配当性向を従来の60%から70%以上に引き上げる方針です。業績の安定と比較的高い配当利回りは、景気後退局面ではディフェンシブ銘柄として注目されるポイントとなりそうです。

【見通し・注目点】

7-9月期は前年同期比8.1%増収となりましたが、純利益は同3.8%増で市場予想を下回りました。純利益の伸び鈍化は非経常収益の減少によるもので、それを除くベースでは同6.4%増です。1-9月期では、1契約当たり月間平均収入が51.2円で前年同期より微増（1.0%増）、法人向けのDICT（データ・情報・通信技術）は前年同期より26.4%の増収となりました。DICTの売上構成比は11%にとどまっていますが、前年同期（9%）よりはやや増加しました。会社側は今後も個人向け事業の安定性と、法人向けではネットワークとクラウド、DICTの総合的な開発に注力すると表明しました。

本レポートに関するご注意事項

・本資料は投資判断の参考となる情報提供のみを目的として作成されたもので、個々の投資家の特定の投資目的、または要望を考慮しているものではありません。投資に関する最終決定は投資家ご自身の判断と責任でなされるようお願いいたします。万一、本資料に基づいてお客様が損害を被ったとしても当社及び情報発信元は一切その責任を負うものではありません。

・本資料は著作権によって保護されており、無断で転用、複製又は販売等を行うことは固く禁じます。本資料の内容は作成時点のものであり、信頼できると判断した情報源からの情報に基づいて作成したのですが、正確性、完全性を保証するものではありません。本資料に記載の情報、意見等は予告なく変更される可能性があります。

手数料及びリスク情報等

・SBI証券で取り扱っている商品等へのご投資には、各商品毎に所定の手数料や必要経費等をご負担いただく場合があります。また、各商品等は価格の変動等により損失が生じるおそれがあります(信用取引、先物・オプション取引、商品先物取引、外国為替保証金取引、取引所CFD(くりっく株365)では差し入れた保証金・証拠金(元本)を上回る損失が生じるおそれがあります)。各商品等への投資に際してご負担いただく手数料等及びリスクは商品毎に異なりますので、詳細につきましては、SBI証券WEBサイトの当該商品等のページ、金融商品取引法等に係る表示又は契約締結前交付書面等をご確認ください。